

事業計画書

2024 年 4 月 2 5 日

○事業名

産業面、文化面での南三陸町内外における交流推進事業

○企業概要

特定非営利活動法人 夢未来南三陸

海や山里の暮らしや食文化等を通じて都市と漁村の交流、経済活動の活性化、環境の保全などの実践事業を行い、中山間・農漁村地域における地域資源を活用した地域づくりを進める。

各産業で認可されている認証をまとめ、世界に紹介できる仕組みを作る。

○コンセプト、ビジョン

南三陸町民同士をつないでそれぞれの町民を元気で個性あふれる存在にし、町外者に「南三陸、面白そう！」と思わせ、誘致できる仕組みを作る。

今後町の人口は減少していくものの、地域の活気と他地域とのつながりは失われないような持続的な仕組みを作る。

○事業概要

地域内交流を増やして地域を活性化するとともに、町外の人にとっても魅力ある場所にする。そのため全方面に向けたハブ的な役割を担う。

産業面：南三陸町内の個人や企業で協同組合をつくり定期的なイベントで他地域から人材を誘致する。また、経営に関する勉強会等を定期的に行う。

文化面：音楽などのコミュニティ活動、南三陸の自然・文化に関する教育活動やそれに関するイベントのサポートを行う。また、南三陸町とつながりのある沖縄県石垣島や台湾など、国内外との文化交流も行う。

スポーツ面：平成の森「楽天球場」「ベガルタサッカー場」など、有効活用できる施設の有効活用で、各スポーツ団体の誘致をして若者がスポーツ聖地であるような活用をする。

○強み

- ・10 年以上にわたる活動のノウハウ（地元とのつながり、農林産物直売所の運営、各種イベント・ワークショップの開催、都市部とのつながりから多くのボランティアを招致）
- ・南三陸の自然・文化・歴史の蓄積

○ターゲット

町内：地域を盛り上げようとしている人、事業体（単に人手が足りないなどではなく、目的を持って何かきっかけを必要としている人たちのチャレンジや表現を支援したいため）

町外：都市圏在住の 20 代男女（都市圏とは違う生活を送りたい、地方でキャリアを積みたい、自由に働きたい、経営を学びたい、一次産業に興味がある、という人）
※外国籍の方も多く誘致して、グローバルな環境を作る。

○ビジネスモデル

- ・夢未来南三陸のサポーター570 人協賛企業 10 社からの収入イベント開催による収入
- ・イノベーションを作られる環境の整備

○具体的な活動内容

〈地域外に向けての活動〉

- ・地元の企業と協力し、都市部からの働き手を確保するためのイベントを行う
- ・山村ワーキングホリデー制度を整備する
- ・田植えや稲刈りをはじめとした農業体験型ツーリズムを行う
- ・観光客に向けて、南三陸の観光地や景勝地、資料館を整備し快適に旅行しやすくする（それぞれの避難経路や避難所の案内も整える）
- ・宮城県や近隣の県、旅行代理店等と協力し、相互送客の仕組みを作る
- ・インバウンドをターゲットにした観光 PR や旅行コンテンツの開発を行う
- ・復興支援に携わった企業や団体を南三陸へ招待し、感謝を伝えるとともに地域の魅力を肌で感じてもらう
- ・都市部の劇団と連携した演劇イベントを行う
- ・カブトムシやクワガタムシを用いた自然体験イベントを行う
- ・農林水産物の海外輸出を支援する
- ・南三陸の産業や自然、文化について、大学との共同研究を行う
- ・最大の強みである、「減災防災」を中心とした学びのかたちを作る

〈地域内に向けての活動〉

- ・スポーツや音楽にかかわる定期的なイベントをもとに、町内外のメンバーで構成されるコミュニティを作る
- ・町内でそれぞれのコミュニティ同士をつなげる組織を作り、同世代交流や世代間交流を深める
- ・高齢者の ICT 利用や、サイバーセキュリティ対策の支援を行う
- ・南三陸への移住者に向けた支援を行う（具体的な生活支援や方言の解説等）

- ・南三陸の自然、文化、歴史について学べる場を設け、地元住民が観光ガイドや通訳ができるようにする
- ・様々な分野の外部講師を小中高校へ招き、子供たちの視野を広げる活動を行う
- ・水産加工、運輸、宿泊業者等と連携し、同業他社間での情報交換や勉強会を行う
- ・マーケティング戦略やクラウドファンディング等、経営に関する勉強会を行う

〈その他の活動〉

- ・南三陸町の「第3次総合計画」の補完ができるような活動
- ・南三陸町みらい創生塾「みなゼミ」とも情報共有し活動
- ・観光協会との連携を深めて具体的な活動
- ・

3ヶ年計画

① 1年目

(1) 地域調査

地元団体・企業へのヒアリング、直売所を通じた商品のプレゼンテーション、都市部で企業へ直接働きかけてのイベント

(2) 人的調査

団体・企業の人材不足理由の聴き取り調査、現状の検証

(3) 具体的調査

現状で必要な人・物・金に対する考え方と、活用方法

(4) 公共団体等の調査

宮城県や南三陸町との調整や具体的施策との調整調査

① 2年目

定期的なイベント開催（販売イベント・研究イベント等）をもとに、町内外がつながるコミュニティを作り、都市圏のサポーターに直接かかわってもらえるよう、営業活動をおこない、ネットワークを構築する。

国内外の旅行会社向けに、観光地としての南三陸町を細かなコンテンツも紹介し、旅行だけでなくこの地に関わるための方法を考えて実行してもらう。

② 3年目

2年目の形を据えて、地域外と共創できるようになり、各団体・企業が活性化して県内はもとより、首都圏から全国、また海外への進出団体・企業の流ができる。

③ 4年目以降

南三陸町の注目度があがり、町外から南三陸町に拠点を作る人が現れる

※追加（プレゼン後）

全国地域おこし協力隊経験者をまとめるプラットフォームを作り、地域おこし協力隊で得た力を再度南三陸で発揮してもらう。